
少年は歩む

煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年は歩む

【Nコード】

N1377A

【作者名】

煉

【あらすじ】

最終兵器彼女の、キャラの独白です。シュウジから始めます。

「……僕達は恋していく」

………ちせ？

ここは、どこなんだ？

なんだ・僕以外、何にも無い。

ちせ？

ちせ？

あれ・ちせって誰だっけ？

「ちせはオレの彼女だ！」

・ああ随分昔にそんな事を言った気がする。
オレ達・ずっと一緒だって。

じゃあなんで、ちせがいないんだ？ずっと一緒なんだろう、ちせ。

どこにいるんだ？

どこにいるんだ？

どこにいるんだ？

「シュウジー！」

声、が聞こえた。

てきてやつつでも、ちせの声じゃない。

もう少し甲高くて・男勝りな・

「アケミ！？」

ショートカットの幼馴染。

「どうしたのさ！！浮かない顔してっ！」
「アケミこそ、なんで出てくんだよ！いきなりっ！！」
「あんたらの恋を応援しようと、わざわざ出てきてやってんのに、それが幼馴染に捧げる感謝の言葉！？」
始まった。いつものケンカ。（もう慣れたけど）

「ちせを泣かしたら許さないからね！！」

「泣かせてねーよ！！」

「嘘はマンネリの始まりだかんね！！シュウジ！」

・それを言うなら「嘘は泥棒の始まり」だろう。

「頭わりーな！！そんな諺どこにあるんだよっ」

「ジョークも通じないの！？ホント、バカっ」

「お前なんか言われたくねーよ！同じ女子でもちせとえらい違いだな！」

「・・・・・・・・」アケミは、一拍置いた。

「アケミ？」

「あたしと、ちせは違うわよ！！」

アケミは、僕を一発殴った。グーで。

「いつてー！！何するん・・・」

！

男勝りのショートカットでケンカ腰の幼馴染の目には、微かに涙が浮かんでいた。

それは、あの日の包帯を巻いた彼女を連想させた。

「もう知らない！！」

「アケ・・・っ」

手を掴む。とたんに、彼女は消えていく。

「アケミー!!」

「………シュウジ。」

「大好き」

その時、幼馴染はいつもと同じ笑顔だった。

「本当は知ってたんだ。あいつに好きな奴がいる事」

!!

景色は変わり、懐かしい校舎の中にいた。

窓から漏れる草木の香りが香ばしい。

教室を挿す夕日は、どこか切なかった。

「……シュウジ君？」

「ふゆみ先輩」

僕より数cm程、背が高いセミロングの穏やかな印象の女性。

「部活終わったなら、早く帰らないと駄目よ。それと、陸上以外ならふゆみ先生でしょう？」

「あ、はい」

僕は懐かしさを感じていた。

まだ、病んでいない「ふゆみ先輩」……

戦争で壊された「恋」に病んでいた「ふゆみ先輩」じゃない
「ふゆみ先輩」。

「ねえ、何やってたの？」

あれ・・・僕、何やってたんだっけ
ふゆみ先輩、僕、何やってたんですか？

「プラモ？」

先輩の、キョトンとした表情で我に返る。

そうだ！！僕の趣味はっ！！

「すみませんっ！！！」

遂、謝ってしまう。

出来れば、先輩には知られたく無かった。
こんな・・・オタクなんて呼ばれてしまう・・・

でも、先輩は・・・

「手伝おうか？」

「へ？」

「完成できるまで、手伝おうか？」

いつもの、あどけない笑顔で笑った。

僕の机に置いてあるのは車のプラモ。

あまりのアナログ趣味に、先輩はどう思っているのだろうか？
けど、先輩は「難しいね」と笑うだけで、ちやくちやくと作業を進めていった。

ふゆみ先輩は不思議だ。

一緒にいるだけで、温かい気持ちになれる。

まるで、「お姉さん」と「弟」という感じで。

すると、ふゆみ先輩は僕の方を見てにっこりと笑った。

・・・心、読まれた？

「シュウジ君、モテモテだね」

は・・・？先輩、何ですか。その話題。

「アケミちゃんの友達だっけ？「ちせ」ちゃんって子が、今日の授業中ずっとシュウジ君の事見てたよ」

・・・ちせ・・・？

僕の手が、先輩の手に触れた。

お互い、紅くなってしまう。

「シュウジ君？」

「駄目」だ。「駄目」な気がする。もう一度・・・先輩を「好き」と思ったら・・・。

・・・ちせ。

先輩が、あまりにも・・・かわいそうだ。

・・・ちせ。

「どうしたの？」

聞かないといけない、気がする。

「ふ・・・ふゆみ、先輩」

「何？」

先輩の笑顔。

サヨナラしないと。

「先輩に・・・好きな人、いますか!？」

突然すぎるぞ、自分。

大丈夫なのか？

「いきなり・・・何？」

そう聞かれるよな・・・普通。

でもここで、言わないと。

「先輩・・・好きな人がいるから、陸上入ったんでしょう?。」

先輩はまた、あどけなく笑う。

ただ、寂しく・・・

遠くを走る「彼」を見つめて。

「大人になんかならなくてもいいのに。」

・・・・・・・・・・。

「シュウジ？」

目の前には、身長が絶対叶わない相手がいた。
同時に、強く憧れた人。

「テツ先輩・・・」

よく見ると高校の運動場。

スポーツ系の部活が混雑している。

「どうしたんだ、こんなトコ来るなんて」

僕にも、よくわかりません。

「・・・いや、暇だったから」

先輩は、僕の頭を撫でると僕の隣に座った。

「いいんですか？練習？」

「・・・どーも実感わかねー・・・」

意味不明な事を言いながら、ミネラルウォーターを僕に手渡した。

僕も、それを飲む。

「シュウジ・・・オレさ・・・」

「はい？」

「インターハイ出る事になった。」

思い切り、噴出しそうになる。

「イ、、インターハイに出るなんてっ！！すごいじゃないですか
！？」

「だから実感わかねーんだよ！！」

先輩は、かなりイラついているようだった。

「そのせいで、やたら家族からは期待されるし大学受験近いのに朝から晩まで陸上だしっ！」

「……かなりご乱心模様。」

「先輩、落ち着いて……」

「シユウジ、ちょっと付き合え。」

「……どこに？」

聞くまでも無く強制連行。

「なんですか！？校舎裏まで連れ出して！先輩のノロケ話！？」

「うるせー！！その逆だっ」

「……逆？」

「……ふゆみに、別れようって言われた。」

「！？えっ……」

「付いていけないんだってさ。オレのペースに」

ふゆみ先輩……そんな唐突な……

「いきなりインターハイだもん……今まででも陸上一筋だったもんで余計こじれてさ」

「先輩はそれで良いんですか！？」

僕は背伸びして、先輩の肩を掴んだ。

先輩は、少し苦笑しているようだった。

「……いやだな。単純に」

「だったら先輩にそう言えば……っ」

「でも、オレが本当に嫌なのはあいつの足枷になるのが、だよ」

「……！」

「あいつには幸せでいて欲しいんだ。こんなオレに関わって後悔するよりオレがあいつを見てる方がずっと幸せだと思うんだ。」

「・・・あいつにとっても。」

先輩は隣の中学を見る。ふゆみ先輩が、窓からこちらを見ていた。

「ふゆみ先輩は・・・まだテツ先輩が好きなんだと思います。」
僕は想う。本当に。

すると、先輩は泣きそうな笑顔で僕を撫でた。

「さーて、もう少し走るか!！」

「先輩、走るの早いですね」

先輩が僕を見下ろす。う・・・すごい身長差。

「シュウジ、良い事を教えてやるよ」

「・・・先輩・・・？」

「大切なのは、前を向いて走る事だ。そうすれば、もっと早く走れる。」

オレよりずっと」

「先輩より・・・？無理ですよ」

「大丈夫。きっとオレは躓くから」

「・・・え？」

もう遠くなってる、背中。

「好きなひとの名前を、おくさんの名前をたくさん呼んで死んでいきました」

[illegible]

ちせ・・？

「シュウちゃん」

どうしたんだよ泣いたりして・・

「あたし・・・夢見たんだあ・・・さっき」

オレもだよ。

「みんなが出てきたの・・・」

ああ
あ
・
・

「嬉しかったんだ・会えて。」

うん・

「シュウちゃん、あたし達だけで良かったのかな．．？」

「助けてあげたかった……。苦しませないで、殺してあげたかった」

オレも……。もう少し早く、気持ちに気付いてあげれば良かった。

・生きて、欲しかった。

「シュウちゃん・あたし達・生きてるよね？」
「ああ」

罪を、償いながら。

（後書き）

暗い・・・！！初めての小説なのに暗すぎですねっ・・・！！（泣き）

お気付きの人もいるかも知れませんが、この中に出てくる登場人物はすべて、

ちせに深く関わった人達です。（ちょっと妄想入ってますが・・・！）
次回のストーリーはもっと明るくする予定です！！（多分）ご了承ください！！>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1377a/>

少年は歩む

2010年10月9日14時40分発行